

東海岸と西海岸、どっちが「極楽」？

「極楽」という概念に関して、人はそれぞれに違う意見を持っているでしょう。しかし、澄み切った青い空と白い雲に、からっとした微風が流れ、暑くもなく寒くもなく…そんな日は、世界中どこの人にとっても「極楽」ではないでしょうか。

先月、ロサンゼルスに行ってきました。

空港の玄関を出た途端に、“癒し”のボタンでも踏んだかのように、美しい陽射しを浴びました。バスに乗り、サンタモニカという地区まで行きました。サンタモニカでは、連なるヤシの木の数に驚きました。西海岸に一度住んでみたら、東海岸に戻りたくなくなる、と言う人の気持ちがいやでも分かった気になりました。

サンタモニカは有名な浜辺です。写真のとおり、摩天楼のすぐ近くに、数え切れないほどの人が日光浴をしたり、泳いだり、はしゃぎまわって楽しめる砂浜が延びています。買い物や食事、お酒を楽しむための場所ばかりと言えなくもありませんけれども、ともかく、かなり綺麗なところですよ。

話が少しずれますが、アメリカ人が日焼けしようとするのを日本人から不思議だと言われたことがあります。アメリカでは、日焼けすることが、美学的に望まれるということですよ。不思議でしょうか？

海辺の写真は、少し分かりにくいですが、人があふれるほどに混んでいた桟橋から撮りました。桟橋は海岸から海の方へ突き出ているのですが、その規模が日本では想像しにくいくらいに大きく、桟橋の上に、お土産店やキオスクが営業をしているほどです。写真から分かるように、海辺の向うには、まるで牧歌的な放蕩が流れるような美しい山々が連なって海岸を遠くから囲んでいます。



写真を撮った桟橋の下に、小さな水族館がありました。子供達の学習のために設けられたもののようで、普通に生息している小さな海の生物が展示されていました。触ってもいい状態で、ヒトデ、イソギンチャクなども展示されていました。とりわけ私が気に入ったのは、写真に写っているタツノオトシゴです。竜とか馬の形をしているモノ（英語で「seahorse」と呼ぶ）が魚類であることを、その水族館で初めて知りました。

その日は、シルバーレークという地区に宿泊しました。シルバーレークには、ニューヨークのブルックリン地区のように、若いアーティストが多く住んでいます。そこは、家賃が高いのに、道端や建物が少々汚くて、経済的な矛盾のある風景です。お金があるのに、ワザと破ったジーンズや古着を身に着ける流行りがあるらしいです。私には、よく理解できませんが。

ともあれ、シルバーレークは楽しいところですよ。気の利いたカフェや渋いバーがたくさんあって、朝のコーヒーから、夜中のアルコールまで、ずっとハイエンドの気持ちで素敵に楽しめました。

次の朝、Intelligentsiaというカフェに行つて、“貧乏のふり”をするお金持ちと一緒に旨いラッテをいただきました。たまにニューヨークに行くと、それと同じ雰囲気にもまれて、不思議な感覚になります。それが、高い青空が広がるカリフォルニアにもあるとは思いませんでした。私もちゃんとその環境に適応するべく、真面目な顔つきでコーヒーを飲みましたよ。

それから、サンタモニカの近くにあるベニス・ビーチに行ってみました。このビーチはサンタモニカと同様に砂浜がメインアイテムですが、建物や人は相当に異なります。サンタモニカは高級な感じでしたが、ベニス・ビーチは下品に楽しい感じ。

歩いていると、どこからともなくタイマの香りが漂ってきます。日陰に座ったら、ジャマイカ系の男が得体の知れない何かを売りに寄ってきました。

歩道と海の間延びる砂浜では人々が大きいサークルを作っています。その人たちがみんなドラムを叩くのです。人に尋ねると、毎日夕方から夜遅くまで「ドラム・サークル」が行われ、見ず知らずの人たちが集まって、互いに旋律を求めながら臨機応変に叩くのだと説明してくれました。最後に警察が来てサークルを解散させることも、日常茶飯事だとのことでした。



私は思ったのですが、東海岸に住んでいる人達が望む自由は、カリフォルニアに住んでいるこの人たちが望む自由とは違う形を取っているようです。

西海岸の毎日の「極楽」な天候は、本当に極楽でしょうか？東海岸に住んでいる私としては、季節がない場所、要するに季節が1つ（春）しかない場所に住み続けることが望ましいことだと思えません。ワシントンDCの夏は蒸し暑いですが、それが終わると、燃えるように色づいた木の葉が舞い落ちる秋の気配がやってきます。自分の顔が痛いほどの冷たい風が吹く冬の日々がなければ、春を楽しむにできないでしょう。

四季のある日本に住んでいる読者の皆様には、私が言いたいことは素直に理解してもらえらると思います。ぜひ、ロスに行ってみてください。そして、一年中“春”なのがよいことかどうかを考えてみてほしいですね。

筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学 (DC) で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町 (現在三豊市) の国際交流協会で一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ蜚が身を焦がす」。